

日本の伝統・文化を継承する若者たち

# 明日への扉

Door to Tomorrow



Yasuyoshi Komiya

1982年東京都生まれ。代々続く江戸小紋染めの職人の家に生まれ、大学卒業を機に三代目の父・康正さんに弟子入り。現在、弟の康平さんとともに修業に励んでいる。



## 江戸小紋

単色の細かい紋様で着る人を引き立てる江戸小紋。その名は多くの色を使う他の小紋染めと一線を画すため、昭和30年に付けられた。小宮さんの曾祖父・康助さんが人間国宝に認定されたことが命名のきっかけだという。



## 江戸小紋職人

小宮 康義 氏

支えてくれる人々の意気を  
生地に表現したい。

一見無地のようだが、よく見ると細かい紋様(小紋)が所狭しと描かれている江戸小紋の着物。それは華美を取締まる、幕府の奢侈禁止令をかいぐるようにして生み出された。地味に見せかけて、おしゃれを存分に楽しんだ江戸の人々の意地と粋の結実といえる。

江戸小紋は、微細な穴が無数に開けられた縦横数10センチの型紙により作られる。その型紙一つで、1反(長さ約12m)の生地全体にムラなく柄を付けるのだ。小宮康義さんは、この伝統の技をわがものとすべく奮闘する若き職人。しかし、最初は江戸小紋にまったく興味がなかったという。

この道に進んだきっかけは?

小宮「美大進学条件として、3カ月だけ仕事を手伝えることになったんです。初めは父に言われるまま作業をしていましたが、そのうち自分に向い

ているような気がして弟子入りを決めました」

小宮さんは江戸小紋染めを生業とする家の四代目。初代(曾祖父)と二代目(祖父)は人間国宝(重要無形文化財保持者 各個認定)という名門の跡継ぎだが、三代目の父・康正さんは家業を継ぐことをあえて強要しなかった。伝統文化の継承を担う重任を身をもつて知っていたからだ。

この道に入って、まだ8年。現在は自分なりに小紋と向き合う毎日だが、それでも経験を重ねるほどに強くなる思いがある。それは、仕事に関わる職人全ての意気を生地に表現しきること。

心掛けていることは?

小宮「江戸小紋の染めにはいくつもの工程があり、自分一人の力では決して成し得ません。多くの人の労苦に応え

るためにも、一つ一つの仕事に全力を尽くしています」

祖父康孝さんの眼差しも厳しい。作品の出来栄がどれだけ良くても、「お前の力でできたと思うな」と論ず。経験の浅い職人が良いものを作れるのは、精巧な型紙を作ってくれる職人のおかげだと。

自らの血のじむような努力と、周囲の人々の支えによって紡がれてきた小宮家の歴史。それは無地のようで、実は精緻な紋様の集まりである江戸小紋そのものだ。名門の四代目として、職人たちの魂をつないでいくために、小宮さんは今日も仕事に打ち込む。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。

※2011年12月取材。掲載内容は取材当時のものです。

**MOVIE MORE!!**  
伝統と家業を継ぎ、江戸小紋染めに挑む彼の姿を動画で詳しくご紹介しています。ぜひご覧ください。

日本の伝統・文化を継承する若者たちを紹介する映像ドキュメンタリー「明日への扉」をぜひご覧ください。

MOVIE



パソコンやタブレット、CS放送など多彩にお楽しみください。

Web版

30人以上のバックナンバーがご覧になれます。

<http://www.athome.co.jp/tobira/>



TV番組

ディスカバリーチャンネル(CS)

冠番組「アットホーム presents 明日への扉」放映中  
毎週金曜日 22:53~23:00



ビジョン

ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

NEW!!



最新号のご案内 好評公開中

No.039 / 東京銀器 銀師 上川 宗達 氏